# サンコール、米で生産

## 日本は新棟 電動車配電部品５倍

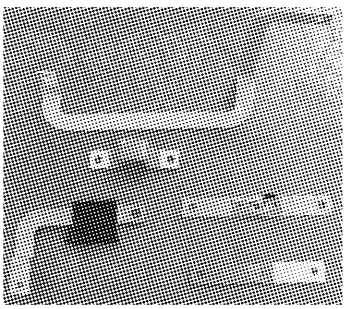
【京都】サンコールは電動車（xEV）などに用いる配電部品「バスバー」の米国生産に乗り出す。xEV向けなどで需要が拡大しており、2026年に米国工場で生産を開始。国内でも生産棟を新設するなど増産体制を整え、27年3月期までに日米合わせて生産能力を現状比5倍に引き上げる。総投資額は約17億円。同社ではxEV向けで大型受注を獲得。自動車以外の分野でも採用が決まるなど需要が拡大している。

バスバーは銅などの金属による導体棒の配電部品。ワイヤハーネスと比べて大電流での使用に適しており、省スペースで設置できるのが特徴だ。xEVではバッテリーとインバーターなどを接続する役割で、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）向けで需要が拡大。サンコールはこれら旺盛なニーズを追い風に生産能力を拡大し、バスバー事業の売上高を27年3月期までに24年3月期比2・5倍強の60億円規模に伸ばす計画を打ち出している。

米国では弁バネやリングギアなど自動車部品を手がけるサンコールアメリカ（インディアナ州）で26年からバスバーの生産を始める。サンコールがバスバーを海外生産するのは初めて。既存生産エリアのレイアウト変更でバスバー生産ラインを新設するか、新たに生産棟を建設するか検討している。

国内ではバスバーの主力拠点である広瀬工場（愛知県豊田市）の敷地内に、新生産棟を整備した。今後フォーミング機など生産設備を導入し、25年初頭の稼働を目指す。23年4月にバスバーの生産を始めたサンコール菊池（熊本県菊池市）でもバスバーの増産を計画している。

サンコールのバスバーはカスタマイズ形状への対応が強み。奈良正社長は「モビリティー分野だけでなくエネルギー分野でも採用されている」と話す。バスバーに抵抗器や磁気式センサーを組み合わせた電流センサーの需要もxEV向けを中心に拡大している。



サンコールが手がけるバスバー（上）と電流センサー（下の3品種）


無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社